

Oshima Hakko Museum News
大島博光記念館ニュース
 第66号

2023年7月24日
 発行 大島博光記念館
 〒381-1233 長野市松代町清野 2567-1
 電話・FAX 026-278-1004
 メール kobayashisono1@gmail.com
 http://oshimahakkou.blog44.fc2.com/



バラまつりでオリエンタルダンスを舞う OKIKA さんたち (5月28日)

だまっちはいない

—故国チリに潜入撮影した映画人の愛に捧ぐ— 小森香子

群らがる鳩 かがやく広場の陽ざし
 だがサンチャゴの人びとは もうあの日から
 チリ人らしい大きな身ぶりで 語らない
 地下鉄にはパトロール隊 通りには放水車
 街中に 完全武装の国家警備隊員(カラビネーロ)
 人は声をひそめ無表情に それでもささやく
 「私たちの国は 飢えている」と

慕われる人びとは 死んでも死なない
 貧民街(ポブラシオン)には 灯明と 花と 祈り
 マリア像のうしろに アジェンデの写真
 バルパライソの墓地には 巡礼が絶えず
 いつも だれかの 花束が香る

「大統領」といえば アジェンデのこと
 夜ごとの子守歌は あの輝く時代を教える

ネルーダが愛したイスラ・ネグラの海の家は
 立入禁止の柵にかこまれ 今は空っぽだけ
 愛の詩集かかえた若者たちが 訪れつづけ
 警備隊がいくら消しても 愛のメッセージは
 柵をおおい重なりあつて 生き物のように
 地震で大地や海がゆれるたび 動きうたう
 「愛は死なない ネルーダは生きている」

サンチャゴの広場も 海も 大地も
 だまっちはいない どんな重圧の時だって
 人間の良心は だまっちは いられない

(『チリ人民連帯ニュース』第31号 1987年3月10日)



アルピジェラ展 2023
 チリ軍事クーデター
 1973.9.11 を忘れない
 5月～12月28日



併設展
 没後50年
 パブロ・ネルーダ展
 5月～12月28日



チリ軍事クーデター
 50年を記念する
 講演と歌のつどい
 2023年9月10日(日)
 サンホールマツシロ



春のバラまつり (5月28日)
 咲き誇るバラと舞姫三人が艶やかな競演!



[アルピジェラ展 2023 関連イベント]
チリ軍事クーデター 50年
 を記念する講演と歌の集い
 ■ 2023/9/10 (日) 14:00~16:45
 ■ サンホールマツシロ

講演
 ロベルタ・パチチ(アルピジェラ
 キュレーター、北アイルランド)
 酒井朋子(京都大学人文科学研究所)
 伊藤千尋(ジャーナリスト、「九条の
 会」世話人)
 歌 竹松えり ベンセレーモス、ありが
 とういのち、おいで一緒に、他

【要予約】
 大島博光記念館 026-278-1004

- <日誌>
- 4月24日 記念館ニュース 65号発行
 - 5月1日 日本 AALA の田中さんと箱木さん
 - 5月3日 アルピジェラ展 2023 オープン
 - 5月13日 映画会「イル・ポステイーノ」
 - 5月27日 うたごえ喫茶
 - 5月28日(日) バラまつり / 友の会総会
 - 6月10日 映画会「コロニア」
 - 6月20日 長野詩人会議例会
 - 7月1日 狼煙 101号発行
 - 7月2日 ヴァイオリンコンサート
 - 7月7日 作家の海堂尊氏が来館
 - 7月8日 第3回アルピジェラ展実行委員会
映画会「ミッシング」
 - 7月11日 講演の神田香織さん他 11名
 - 7月12日 荻原姉妹とネルーダ詩の鑑賞会
 - 7月22日 うたごえ喫茶 (6月は休み)

- <スケジュール>
- 5月3日～ アルピジェラ展
 - 9月10日 チリ軍事クーデター 50年を記念
する講演と歌の集い
 - 第2土曜日 映画鑑賞会
 - 第4土曜日 うたごえ喫茶

デュオ・ロスマリン コンサート ～再会の喜びを奏でる～

4年ぶりの神野優子・宮林陽子姉妹のコンサート。モーツァルト、ヴェルディからシャンソン、映画音楽、童謡まで美しく演奏。



アルピジェラ展 2023 始まる

チリ軍事クーデター 50年
 — 1973.9.11 を忘れない



日本 AALA の田中靖宏さんと箱木五郎さん。50年記念の集いについて懇談し、象山地下壕も見学。(5月1日)

針と糸で描くチリの現実。チリの女性たちが縫い上げたタペストリーが圧巻です。平和の願いを伝えるのに、こんな方法もあったのですね。

・南米の現代史や社会情勢に興味があったので、とても面白く見ました。
 ・南米チリの現代史、大変感銘を受けました。(感想文より)

チリクーデター 50年を記念する集いにツアーで参加 作家の海堂尊さんが来館

日本 AALA(アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会)がバスツアーで参加を企画。伊藤千尋さんも同行。この集いの後援団体となりました。



友の会会長に新村さん
 記念館友の会総会を開催
 1年間の活動のまとめと新年度の方針、体制について話し合い、友の会会長は宮沢栄一さんが退任し、新村富男さんが選ばれました。宮沢さん、お疲れ様でした。(5月28日)

ネルーダ展を見学され、「ネルーダ万歳! 大島博光先生万歳!」と記帳。「サンデー毎日」にパブロ・ネルーダを主人公にした連載小説を執筆中で、8月から掲載されます。ネルーダがどんな活躍をするのか楽しみです。

【編集後記】
 ■ アルピジェラ展 2023 がスタート。新聞を見てきたという人、はなやかに食事に来て記念館玄関の大きな看板にひかれて来館する人。多くの人が足を運んで下さって嬉しい。
 ■ 「デュオ・ロスマリンコンサート」魂を揺さぶる演奏でした。こんな近くでヴァイオリンの弦の響き、震えまで聞くことができ、しあわせでした。大きなホールで聴きたいとの要望もありました。
 ■ 「春のバラまつり」に「デュオ・ロスマリンコンサート」と文化行事に多くの人が集い、幸せな時間をもつことができました。これからも地域の文化活動の発展のために役割を果たしていきます。



¡Adiós Pinochet! / さよならピノチェト! 作者不明 製作年 1980年頃 Conflict Textiles 所蔵

1988年10月、国民投票でピノチェトは不信任され(ノーの勝利)、人びとは16年に及ぶ軍事独裁に勝利しました。大島博光は詩に書きます。

夫がしよっぴかれれば / 愛する夫の行方をさがして / 妻たちが立ち

ネルーダの詩の鑑賞会—荻原姉妹が朗読—長野詩人会議 (7月12日)

7月12日のネルーダ生誕の日、ネルーダを敬愛する荻原梨絵・紗希姉妹をお招きして鑑賞会を開きました。写真やチリの国旗、関連書籍を飾ってネルーダの誕生日を祝い、「ネルーダと友人たち」をテーマに話と朗読。「ルベン・ダリオに捧げた詩の闘牛」はネルーダとロルカの友情の結晶といわれ、二人がロルカ役とネルーダ役となって朗読しました。荻原梨絵さんが訳した「原



荻原梨絵さん紗季さんを囲んで。撮影 田辺修

小森香子さんご逝去—詩人会議、チリ連で博光と活動

詩人の小森香子さんが六月二日亡くなりました。93歳。詩人会議の常任運営委員、運営委員長を歴任、チリ人民連帯委員会でも常任として活動しました。大島博光が亡くなったとき、弔詩を朗読しています。



大島博光告別式にて 2006年1月

静かに去ってしまった大島博光さん。もしか/心のうちには憲法九条を踏みじろうとする政治への/激しい憤りを秘めておられたのではないでしょう。かつてパブロ・ネルーダを見送ったデモの労働者や婦人たちの「プレゼンテ！」(ここにいます)の叫びを/私はいまあなたに 贈りたい

山形暁子さんのこと



大島博光生誕百年の集いにて 2010年4月

作家で民主主義文学会で活動された山形暁子さんが七月二日ご逝去されました。83歳。大島博光記念館友の会に入会され、ずっと応援してくださいました。

二〇〇八年、市川市の診療所で初めてお目にかかったとき「若いころから民主文学運動に参加していた、事務所で大島博光先生をよくお見かけしました」と自己紹介され、「女たちの闘牛」など数冊の著作を頂きました。推められて「民主文学」誌の定期購読も始めました。

長野詩人会議『狼煙』101号を発行 (7月1日)



課題詩は「夢」。新しい会員をはじめ、力作が揃う。ネルーダ「音楽や森のように」(大島博光訳)、「大島博光記念館アルピジェラ展2023について」を掲載。頒価六百元。

対談 三人のパブロカザルス、ピカソ、ネルーダの芸術(2) 大島博光(詩人) 井上頼豊(チリリスト) 政治的に目覚める 共通のきっかけに 井上 スペイン内乱とそれにつづくフランコ独裁とのたがいは、三人が政治的に目覚めていく共通のきっかけになっていますね。



20歳のネルーダ

の仕事をしていたものがしばしば聞いたのは、カザルスはひじょうに金銭的にやかましく。演奏会で最初の休憩のときに演奏料を全額もつてこないと次を弾かない、受けとるとそれを弾かないに数えてポケットに入れ、また天使のような顔をして舞台に出て行くと、といううわさでした。いかにいかなやつだという気にも、いやなやつだという気でも話されたものです。外国に輝くスペイン、精神のスペイン人から。ところがカザルスは当時に演説の名譽議長で、スペイン難民の救済に気を配っている……。

大島 フランコ軍に焼き払われた人びとのために…… 井上 外国を演奏旅行しながら、ギヤランティの一部は人民戦線軍に送っていた。ですから彼なりの方法で、金もつてこなければ弾かないぞといえは大騒ぎになることはよく知っていて、使いみちについては一言も言わなかった。私たちがそういうことは全然知らなかったのですが。

大島 ピカソも絵を売って人民戦線に支援金を送っていました。一九三七年の二月にパリでスペイン人民支援集會が開かれ、ピカソのよびかけなどもあつて各分野で運動が盛んになる。集會にはネルーダも参加して講演しますが、それが有名な「ガルシア・ロルカの思い出」です。ロルカという



ピカソ「ゲルニカ」1937年

ドラマ「ガラパゴス」——ガラパゴスの最前線(派遣労働)で闘った青年の死



出演：織田裕二 桜庭ななみ 満島真之介 伊藤英明 高嶋政宏 原作：相場英雄『ガラパゴス』(小学館) 脚本：戸田山雅司 初回放送 2023年2月6日 NHK BSプレミアム/BS4K DVDあり 上下巻各90分

警視庁の田川刑事織うとし、自動車会社と派田裕二は、練炭自殺とさ遣会社首脳指示で殺られていた身元不明の死者害された一が明らかになが青酸カリによる殺害である。しかし政治家の介入であることを見抜き、彼を上層部の捜査は中止に。宮古島出身の派遣労働者・仲野定文(満島真之介)と突き止める。島の中「貧乏の鎖は僕で最後に専に進み、派遣工員となつた男だった。鑑識課の木幡いつだつて自分のことよ(桜庭ななみ)とともに生りも先に誰かのことを考各地を訪ねる。仲野が体験した理不尽な環境と、闘争の場を全くと知りませるために合格確実だった自分が欠席した(その結果この国からなくなつてな派遣労働者になった)こんかいけない。たとえどんを渡すために飲み会から変えていくことが仲野を開いたり、追い詰められさんの死を無駄にしないた女性になけなしの旅費のためにできる唯一のこと像がわかる。そして彼が殺された真相—自動車会社がコスト削減のために行った不正をSNSで告発しよ